

ブック村だより



GATEWAY開館20周年に寄せて	(1)
特集 図書館のあゆみ	(2)
一層の活用を!	(3)
利用者の声	(4)
本学コレクション紹介(39)	(8)
大商大ブチエッセイコンテスト結果	(9)
LSS活動報告	(9)
Books Now	(10)
Information	(12)

GATEWAY開館20周年に寄せて

学長 谷岡 一郎



GATEWAYがもう20年になるとのこと、当時の在学生が40代になっているとは、まさに光陰矢の如しですな。「GATEWAY」は衆知のとおり、「登竜門」という意味を持っています。私の独断でこの名前に決めたことは少し反省していますが、出来上がった建物が何となくゲート（門）のような構造になったのは偶然です。私には図面を詳しく見る能力など、なかったのですから。

入学生は、すべからくあの門を通過してやって来ます。卒業生が出て行く時も同じです。偶然とはいえ、中々の命名だったでしょう（エッヘン!）。今でこそよく聞く名詞ですが、当時はまだ、「ゲイトウェイ」という言葉はほとんど使われていない時代だったのです。

同時に建築が進んだのが「蒼天ホール」です。このホールの名称も私の独断でした（ごめんなさい）。どんな悪天候であっても、厚い雲の上には空が広がっているはず。「蒼天」というのはこうして名付けられました。あえて「青」ではなく、「蒼」を使ったのは、宇宙の広がりを意識していたからです。

「U-メディアセンター GATEWAY」は、2022(令和4)年9月30日に開館20周年を迎えました。

1949年、大学設立と同時に設置された図書館は、1967年に独立棟図書館として「ホモ・サピエンス」が建設され、2002年、現在の

「GATEWAY」へと引き継がれます。

図書館は、「学園教職員、学生のための“知識の泉”であり“資料の宝庫”でもある」(『谷岡学園五十年史』)との考えのもと、その使命を果たしてきました。図書館発足以来の歴史を振り返ります。

1949(昭和24)年：大阪商業大学の前身である「大阪城東大学」の設立と同時に図書館発足。〔▶蔵書約2万冊〕

1967(昭和42)年：独立棟図書館「ホモ・サピエンス」完成(現在の2号館「Re/Ra/Ku」)。

1991(平成3)年：図書館システム導入(業務効率化やサービス高度化を目的にコンピュータシステムを導入)。

1992(平成4)年：図書館報『杏壇』創刊。
：コインロッカー設置。

1993(平成5)年：市民開放(一般利用)スタート。

1997(平成9)年：視聴覚コーナー設置。

2001(平成13)年：8月10日発行の図書館報18号から『ブック村だより』へ名称変更。

2002(平成14)年：“学問への登竜門”となることを願い、「U-メディアセンター GATEWAY」オープン。〔▶蔵書約35万冊〕

2006(平成18)年：学生選書ツアー開始。

2008(平成20)年～2013(平成25)年：朗読劇開催(本学商業史博物館との共催特別公演)。

2009(平成21)年：読書会開始。

2012(平成24)年：GATEWAY開館10周年記念展示「経済学の古典に学ぶスミスの世界とミルの世界一」開催。〔▶蔵書約48万冊〕

2014(平成26)年：第1回大商大プチエッセイコンテスト開催。

：開館時間延長(平日22時)及び日曜・祝日の開館開始。

2015(平成27)年：「大阪商業大学学術情報リポジトリ」の登録、提供開始。

：国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の提供開始。

2016(平成28)年：電子書籍の提供開始。

2018(平成30)年：LSS(Library Student Staff)発足。学生目線で利用したい図書館づくりを目指して活動開始(選書ツアー、読書会、企画展示などの運営をサポート)。

2019(令和元)年：図書館twitter開始。

：図書館ホームページリニューアル。

：図書館秋フェスティバル開催。

2021(令和3)年：クラウド型図書館システム導入。学園設置校である神戸芸術工科大学情報図書館と共同運用開始。

2022(令和4)年：GATEWAY開館20周年。〔▶蔵書約54万冊〕



GATEWAYと蒼天

図書館では本を借りたり調べものをするうえで、数々の情報サービスを受けたり、図書館企画に参加できることをご存知ですか。

ここでは図書館に寄せられた質問に答える形式で、利用サービスや図書館企画について紹介します。今後一層の図書館利用をお待ちしてい

ます。図書館の利用方法や資料の探し方、資料の配置等については、2階・6階のカウンター等に設置しているリーフレット「利用の手引き」や「レファレンスサービス案内」で確認することができますので、あわせて参考にしてください。

Q レポートを作成する際、参考文献をどうやって探せばいいの？

(1)まずはレポートのテーマに沿った文献としてどのようなものがあるか調べてみましょう。調べ方としてデジタルデータ閲覧サービスを活用し、大阪商業大学が契約するデータベースで調査するのも一つの方法です。大学図書館のホームページの「デジタルデータ閲覧サービス」から簡単に調べることができます。例として、学協会で発行された学術雑誌と大学等で発行された研究紀要の両方を検索できる「CiNii(NII学術情報ナビゲータ[サイニィ])」、雑誌記事を検索・閲覧することができる「日経BP記事検索サービス」等があります。自学自習をサポートする各種データベースをそろえていますのでぜひご活用ください。

(2)次に、探した文献が大学図書館にあるか確認しましょう。図書館のホームページ「蔵書検索OPAC(本を探す)」で検索します。図書館に所蔵があれば検索結果に表示されますので、記載されている配架場所を探しに行きましょう。所蔵が無い場合は、ぜひ資料リクエスト制度を利用してください。本学の収書方針に沿った資料の場合、購入することができます。

(3)ほしい資料になかなかとどり着けないときは、ぜひレファレンスサービスを利用して

ください。レファレンスサービスとは、資料や情報を求める利用者に対し、司書が聞き取りを行いながら文献探しなどのお手伝いをするサービスです。①文献・資料の所蔵、所在の調査や利用手段の案内、②文献・資料検索の支援、③他の所蔵機関の文献の閲覧や複写物の取り寄せ、さらに借用ができる相互利用(相互貸借)サービスの案内、④特定事項に関する調査の支援など幅広く対応しています。資料探しに困ったときは、ぜひ2階または6階のカウンターまで気軽にお声がけください。

(4)文献にたどり着き、必要な部分を複写して手元資料にしたい場合は、図書館でコピーサービスを受けることができます。図書館施設内での複写は、著作権法に基づき、図書館の所蔵する資料を、利用者の調査研究用に、資料の一部を一人1部のみコピーすることができます。2階・6階カウンターに備え付けの文献複写申込書に記入のうえ、カウンターに申し出てください。



Q 図書館に興味があります。参加できる企画はありますか？

図書館では、学生の皆さんに参加してもらえよう、さまざまな催しを行っています。お気に入りの本を決まった時間内でギャラリーの聴き手に紹介する「読書会」、他人にお勧めしたい本や自分で読んでみたい本を書店に出向き選書する「学生選書ツアー」等、趣向を凝らした企画を開催していますので、図書館ホームペー

ジやS-Navi! 掲示板でご確認ください。

また、学生目線で図書館を使いやすくするために活動(企画展示、古本市等)している図書館学生スタッフ・LSS(Library Student Staff)も随時募集しています。LSSの活動に興味のある方は、ぜひカウンターまでお声がけください。

大学生生活を共にしたGATEWAYへ

公共学科4年 榎崎 祐衣

GATEWAY20周年おめでとうございます。

私は、大学1年生の頃から図書館学生スタッフとしてお世話になっています。広島から出てきて、1人ぼっちの私を優しく受け入れてくれたこの団体も、図書館がなければ出会うこともありませんでした。優しい先輩方や面白い後輩達とのんびりお喋りをしている時間、LSSとして企画を頑張っている時間は私にとって、とても幸せな時間です。大切な親友や彼氏とも出会うことができ、私の大学生活の大部分は図書館から始まっていることをこの文を書きながら痛感しています。

最後に、図書館学生スタッフとして卒業まで思い出を作り続けていきたいと思っているため、これからもよろしくお願ひします。

GATEWAYの発展を祈念して

経営学科4年 小堀 徹

GATEWAY開館20周年、おめでとうございます。

GATEWAYとのお付き合いは、私が入学した3年半前からになります。最初に驚いたことは、収蔵図書に、アダム・スミスの『国富論』、マルサスの『人口論』、ミルの『論理学体系』、『経済学原理』などの原書、それも初版本があることでした。さすがに商業大学ということもあり、先達の方々の努力を思い浮かべることとなりました。

現在私はGATEWAYのリクエスト制度を有効に活用させていただいております。自分が読みたいと思うだけでなく、他の学生の方々にも役に立つであろうと考えられる本をリクエストしています。また学生選書ツアーもありその際にも希望図書を購入していただけます。こういう機会を逃さず、本学学生が積極的にGATEWAYに今後もかかわっていくことで、GATEWAYの充実が図られるのではないかと考えています。

今後の益々の充実した発展を祈念しております。

図書館スタッフのリーダーとして

商学科3年 安野 諒

私が入学してから、コロナ禍により授業の大部分がオンラインとなり通学することはほとんどありませんでした。その中で、たまに登校した時には必ずと言っていいほど図書館に足を運びました。図書館は、静かで、興味のある本もたくさんあり私のお気に入りの場所の一つです。そして、今年に入り行動制限が緩和されオンラインと対面授業の併用となり大学に出てくることも増えました。

私は、教職課程を専攻しているため授業科目も多い中、会計学研究会、図書館学生スタッフ、留学生生パディとして活動しています。学習目的以外にもさまざまな知識を得るため図書館を活用し、図書館があるから学生生活が充実していると思います。

GATEWAYの思い出

新子 香織(2010年卒、旧姓 水本)

GATEWAY開館20周年おめでとうございます。入学した当初からテスト勉強や課題作成などで、GATEWAYを必ず利用していました。

とても静かな空間で勉強や課題が進んだのを今も覚えています。

また、私は学生会本部に所属し、4年生で委員長という責任のある立場にありました。その頃、作業で行き詰まったり疲れた時は、気持ちを落ち着かせるために、GATEWAYでサボっていた事も良い思い出です。

そして、卒業後も仕事に必要な介護保険制度の勉強をするためによくGATEWAYを利用していました。この時に勉強していた事は今でも役に立っています。

5階の開架書庫の奥にある席がとてもお気に入りでした。

これからも、商大生の勉学の場、リフレッシュの場として、多くの学生さんたちにお力添えいただきますようによろしくお願いいたします。

私にとってのGATEWAY

経済学科 准教授 田崎 公司

本学の「学問への登竜門」であるGATEWAYが、開館20周年を迎えました。登竜門とは、中国・黄河の急流を登り切った鯉が、竜になることができるという逸話が由来になっています。勇ましい「鯉の滝登り」は縁起物として絵画や掛け軸で親しまれています。しかし元気で屈強な鯉でさえも、ほとんどの場合は滝を登れません。

滝を遡ることができる魚類は鱧うなぎなのです。古来、鱧の産卵や成長の生態は知られていませんでした。十返舎一九『東海道中膝栗毛』の序文「山芋鱧になる」のように、変哲もないものが鱧に変わると信じていたのです。水飛沫をあげる滝を、ロッククライミングのように登っていく鱧を想像しながら、私はGATEWAYを通り抜けます。

GATEWAY

経営学科 特任教授 増田 正子

夕闇が迫る頃の研究棟から正門へ向かう風景が好きだ。GATEWAY、未来にむかう通路のように、キラキラした白い光が眩い。

私の図書室の記憶は小学校に始まる。薄暗く本独特の匂いがした。巻末のブックカードの名前が気になった。中・高・大学の図書館は「本の虫」だった私を育ててくれた。大学院時代は、中之島図書館へよく通った。商大とは違う「邪険」(失礼!)ぶっきらぼうな対応でそれが普通だと思っていた。整然とした美と機能性を持つ空間での手作りの温かな企画が嬉しい。

そういえば、日本語Ⅱの受講動機にプチエッセイコンテストの入賞を目標に掲げていた学生から入賞したとのメールを貰った。元々文章力のある学生だったが嬉しかった。まさに人を育てる空間だ。

「教えられる」から「自ら学ぶ」へ

公共学科 教授 桑島 紳二

職業柄このようなことを書くのはなんだが、私は人から教えてもらうことがあまり好きではない。子供のころから椅子に座って先生の話聞くことが苦痛で仕方がなかった。だが、自分が興味関心のある雑誌や本を読むことは嫌いではなく、なんだかんだと読んできた。私の知識はおおかたそれらから仕入れたものが土台となっている。

ということで、私は授業で「知識の伝授よりもまず、興味関心を引き出すこと」を大事にしている。そこで必要になってくるのが図書館である。授業で「？」が灯った学生が図書館で知的欲求を満たす。そしてそのうち、「自分から知る」ことの楽しさに目覚める...。「GATEWAY」というネーミングにはそういう意味が込められているのだと私は勝手に思っている。

GATEWAYから紡ぎ出されることば

公共学科 教授 迫 俊道

GATEWAYから刊行されている「ブック村だより」。教員が自身のライフストーリーに関連させながら、学生が図書館に足を運びたいような内容をまとめている。私は感銘を受けた内容を授業で紹介している。

「プチエッセイコンテスト」の企画には、ここ数年、ゼミナールで応募を推奨している。今年の募集テーマの1つは、「あの時の私に送る手紙」。ゼミ生が書いた内容を確認した。中学生や高校生の時の自分に対して、「ちゃんと勉強しておいた方が良いと言いたい…」といった内容が多かった。

自分を振り返り過去の自分に手紙を書く機会はまずないと思う。今回の企画によって、学生の正直で素直な思いを知ることが出来た。今後もGATEWAYの魅力ある企画を切望したい。

利用者の声



構想に携わり

事務局長 長谷川 孝好

メディアセンター事業に携わったのは、平成11年9月であります。当年7月に基本計画が組立てられ、実施設計へと移行、その間、旧文部省との創設財源の確認等を行い、本学園として建設事業費は総額38億円となった。建物は地上6階建て、8200㎡、上層階に計画していた教員研究室を分離し、年度を前倒して個人研究室の改装が行われた。

図書館機能部会長であった高橋図書館長・前川相談役を中心に将来を想定した議論、特に収蔵規模の問題に多くの時間が費やされたが、十分な意見交換を経て実施設計が完了した。

建物の特徴としては、西面は西日対策のテラコッタルーバーを、東面は生駒山系を望むFIX窓(EVも同様)を配置し、屋上には学生達の憩いの場所として、デッキスペースを設けた。名称は、Uメディアセンター GATEWAYとなり、「学問への登竜門」として、正門で学生達を出迎える建物として平成13年4月に着工され、翌年9月末に竣工した。



館内散歩のすすめ

図書館事務室 事務室長 川西 秀雄

この4月より約30年ぶりに図書館の仕事に就いた。現在のRe/Ra/Kuが図書館であった時代に館報『杏壇』の創刊や開架図書コーナーの増設、図書館の市民開放などに取り組んでいたが、さすがに昭和に築いたキャリアでは、令和の世の浦島太郎となっている。

出勤時にGATEWAYの6階より生駒山とあべのハルカスを望むのが自分の贅沢なルーティン。GATEWAYは旧図書館とは違い全面開架で、今は仕事の合間の館内巡回が自分にとっては心地よい散歩のような気分である。

毎回、色々な本や雑誌との出会いが待っており、多くの刺激やヒントをその都度に与えてくれている大切なもう一つの贅沢な時間でもある。



GATEWAYのいろんな思い出

谷岡学園 人事課 マネジャー 花見 俊洋

GATEWAYで本はたまに借りる程度でよく借りるというほどではない。展示やイベントがあれば見に行く程度。

U-メディアセンター GATEWAYの名前が決まった当時、それまでのメディアセンターを今後は「GATEWAY」と呼びましょうと通知があった。GATEWAYの完成。来賓により華々しくテープカット、さあ入館と思ったら、自動ドアが開かない。電源が入っておらずあたふたしていた。

1階の情報プラザ、当初は大型モニターも動いていた。新しく明るい図書館！生駒山を望むすばらしい眺めのテラス(また出られるといいな)。

いろんな思い出があるが、その後、開館時間の大幅延長。電子書籍の蔵書。コロナ禍の休館。芸工大図書館との連携等いろいろあったが、さらなる進化を期待します。



GATEWAYとの出会い

キャリアサポート室 リーダー 須山 拓也

GATEWAYとの出会いは大阪商業大学に2007年入学後、資格を取得するための勉強場所として頻繁に活用していました。広々とした空間の中、自分だけの静かなスペースを確保でき、常に勉強に集中できる環境が整っていました。私は入職後、配属が藤井寺キャンパスとなり6年間勤めた後、人事異動で大阪商業大学に戻ってきました。

私が、大阪商業大学に戻ってきたときに、正門を通り過ぎた先に堂々たる姿でお迎えしてくれたGATEWAYの存在感を今でもはっきり覚えています。私は現在キャリアサポート室で学生に就職支援をしている部署にいます。今では、自分自身が学生時代に経験したGATEWAYの活用方法を就職や資格についてさまざまな相談に来る学生に、日々伝えています。



図書館とわたし

学長企画室 佐々木 泉

第1期(10数年前～)：勤務先にきれいな図書館があることが嬉しく、終業後に時々立ち寄っていました。

第2期(5～6年前)：しんとした閲覧室の雰囲気が好きで、自宅では集中できない勉強に利用していました。煮詰まっているときは黙々と勉強する周囲の学生の姿に励まされました。

第3期(現在)：休憩時間の散歩ルートです。2階「新聞書評」コーナーの後、その日の気分です・4階の書架のうち一列を物色します。予想外の棚で好みの本に出会うことがしばしばあります。街の書店に行く機会が減った昨今は特に、本との偶然の出会いは貴重です。

第4期(未来)：図書館内に一室いただける場合は4階東側を希望します。いつでも引越せます。



GATEWAYで出会った心に残る一冊

大阪商業大学高等学校1年 川島 萌

私は1学期に何度か図書館を利用したことがあるのですが、その時に出会った本について紹介しようと思います。その本の題名は、『20歳のソウル』と言う題名の本です。この本の内容は実話で、作曲家になること、恋人との結婚などたくさんの夢を抱えたまま、浅野大義さんという方が肺癌のために20年の短い生涯を終えるという話です。

大義さんの告別式、高校の吹奏楽部OBと仲間達が涙で演奏する大義さんが作曲した市立船橋高校の応援歌「市船soul」。この場面を読んで、大義さんはとても愛されていたのだなということが伝わって感動しました。そして、肺癌になっても最後まで必死に生きようとした大義さんはすごいと思っただけで、生きることについて考えさせられました。とても感動する作品なので気になった方、是非読んでみてください。



GATEWAYと私

一般利用 N.S.

開館20周年おめでとうございます。

私とGATEWAYとの出会いは私の子供たちが中学校の職業体験でお世話になったことです。彼らは図書館の設備が充実していてすばらしいところだと話していました。実際に図書館に足を運んでみるとさまざまな分野の専門書が多数あり館内の環境も抜群です。この図書館で一般利用登録できたことで私にとって新たな読書習慣が生まれました。

コロナ禍で入館制限がありましたが、「第7回大商大ブチエッセイ大賞」が一般利用者の部を設けられたので応募し、思いがけず賞をいただきました。表彰式での他の受賞者や職員の方々との時間は大変有意義なものでした。

今後も図書館を長く利用させて頂きたいと思っております。



好奇心

一般利用 今井 和子

14年前、単位履修を、卒業後30年振りに受講。同時に図書館利用も出来た。何か自分が若い頃に戻ったような感覚になり、喜びが蘇って来た。『ブック村だより』は、図書館に並べられている号を、必ずチェックして中を開きます。自分で探す本は、どうしても好きな歴史関係のものが多く、視界を広げる手助けになります。学長さんや教員の方々の読書歴も覗け、手に取った本の著者の本を次々に読み、本の中の世界が広がっていきます。高校の国語教師が<年100冊読みましょう>と言われた事を思い出し、読書三昧の古希の私です。有難うございます、感謝！

貴重書コレクションを振り返る

図書館ゲイトウェイは開館20年周年を迎えた。

1992年図書館報『杏壇』が創刊され、本学所蔵の貴重書を紹介する「シリーズ貴重書探訪1」がスタートし、93年には「シリーズ貴重書探訪2」が掲載された。2001年に館報は、『杏壇』から『ブック村だより』と名称変更し、貴重書紹介も「本学コレクション紹介」と改めて、その後断続的に掲載された。

そこで紹介された著者は、今日の人文・社会科学を作り上げた巨人が目白押しである。近代会計学の父と言われるルカ・パチョーリ。イギリス哲学史上最大の哲学者であり、歴史学、経済学にも大きな足跡を残したデイヴィッド・ヒューム。フランス革命をはじめとする歴史的事件にも、文学、教育学、政治学、思想史にも多大な影響を与えたジャン=ジャック・ルソー。『人口論』でもって保守主義思想のよりどころとなったトマス・ロバート・マルサス。経済学の父とされるアダム・スミス。経済学の歴史学派の代表者であるフリードリヒ・リスト。経済学、論理学、政治学、倫理学に大きな足跡を残し、その『自伝』は日本の学校でも英語のリーダーの教科書としてよく読まれたジョン・スチュアート・ミル。『資本論』、『共産党宣言』を書き、世界の歴史にも学術的にも多

大な影響を与えたカール・マルクス。異色などころでは江戸幕府を終焉させるきっかけとなったペリー。

こうした思想家の著作は人類の知的遺産である。それらを読むことは、いわば世界遺産を知的空間の中で探検するようなものである。ルソー、マルクスなどは高校の教科書にも出てきて、試験では著者名、著書名を答えるだけのことが多いが、名前だけ知っていてそれを実際に知らないということは、人生において大きな損失である。また経済学を学ぶ者にとって、アダム・スミスは経済学の出発点であり、同時に、さまざまな問いかけがなされているので、それに答えることはゴールでもある。古典には読み手の問題意識によって、いつも新たな発見があり、新たな問題をわれわれに突きつけてくるものである。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)



◆「本学コレクション紹介」連載記事で取り上げた著者と著書等：館報掲載号索引

著者	出身国	生年	没年	著書	刊行年	館報紹介記事掲載号
ルカ・パチョーリ	イタリア	1445	1517	『スムマ』(：『算術、幾何、比と比例大全』)	1494	1,22-24
デイヴィッド・ヒューム	スコットランド	1711	1776	肉筆書簡	1771	19
				『イングランド史』初版(6巻)	1754-62	20
ジャン=ジャック・ルソー	ジュネーブ共和国	1712	1778	『政治経済論』	1755	43-49
アダム・スミス	イギリス	1723	1790	『国富論』	1776	2,18
トマス・ロバート・マルサス	イギリス	1766	1834	『人口論』初版、第2版、第5版、第6版	1798	21,32-34
フリードリヒ・リスト	神聖ローマ帝国	1789	1846	『著作集』(『経済学の国民的体系』他)	1841他	50-55
マシュー・カルブレイス・ペリー	アメリカ	1794	1858	『日本遠征日記』	1856	40,42
ジョン・スチュアート・ミル	イギリス	1806	1873	『女性の隷従』	1869	25
				『サラ・オースティンへの手紙』	1848	29
				『セント・アンドルーズ大学名誉学長就任演説』	1867	30-31
				『自由論』	1859	35-37
				『自伝』	1873	38,39
カール・マルクス	プロイセン	1818	1883	『資本論』第1巻、第2巻、第3巻	1867,1885,1994	26-28

第8回大商大プチエッセイコンテスト 受賞作品決定



大商大プチエッセイコンテストは、本学学生がエッセイという形式で自分の考えを自由に表現する文章力を養うことを目的に2014年から実施しています。

今年度は、GATEWAY開館20周年を記念して、GATEWAY命名に込められた思いにちなむ2つのテーマを掲げました。

テーマ①「GATEWAYと私」は、GATEWAY2階から6階の図書館での本との出会い・思い出・エピソードはもちろん、1階のエントランススペースでの出来事や活用法などGATEWAYにまつわるストーリーを、テーマ②「あの時の私に送る手紙」では、大学生活でいろいろなことを経験し、今、新たな「もう一人の自分への入口」に立っている「私」から過去の「私」に伝えたいことを振り返り、綴ってもらいました。

応募総数24件の中から厳正な審査により右の7件が各賞に選ばれ、10月28日(金)に授賞式を開催しました。

受賞作品は、2階入館ゲート右手の館内掲示板に展示しています。ぜひ、ご一読ください。

図書館長賞

「私のGATEWAY」

経営学科1年 阿部萌霞

“まさか館長賞をいただけるとは思わなかったので、とてもうれしく思います。また来年も作品を応募したいです。”

優秀賞

「メディアと私と20年」

地域政策学研究科 博士前期課程1年 松浦 康之

“ちょうど20年前に入学し、今、大学院に通っている。次の扉を開き進んでいきたい。”

「中学生の頃の私へ」

商学科3年 ひよこ(ペンネーム)

“LSSとして応募しました。また来年もチャレンジしたいです。”

審査員特別賞

「高校生の自分へ」

公共学科3年 山田 圭祐

“受賞できてよかったです。来年あれば、また頑張りたいです。”

「心に残る後悔」

公共学科2年 上野 佑真

“まさか自分が入賞すると思わなかったが、とてもうれしいです。”

「何となく」

公共学科3年 橋本 一輝

“初めてコンテストというものに応募しました。自信になったらいいと思う。今後は、自信を持って進みたい。”

「図書館」

公共学科3年 尾崎 凜太郎

“うれしく思います。図書館を利用するいいきっかけとなった。”
※ “ ”内は受賞時のコメントです。

2022年度LSS活動報告(4月～10月)

図書館の運営をサポートするLSS(学生スタッフ)。2018年7月に発足し、今年度は28名で活動しています。

自分たちでテーマを決めた企画展示、昨年に引き続いて夏期研修や今回初めて学外での図書館見学会も行いました。

◇企画展示「東大阪市と文学」

前期：6/3～8/18 中期：8/20～11/24 後期：11/26～3/30

東大阪市と関わりの深い司馬遼太郎、田辺聖子らの作品を展示し、“文学のまち・東大阪”をアピール。(写真①)

◇企画展示「政治・選挙について知ろう2」 6/10～7/14

商大生も選挙に行こうと7月の参院選に合わせて展示。

◇大阪府立中之島図書館見学 7/22

さまざまな企画イベントやビジネス支援も行う同図書館を見学。(写真②)

◇第11回大学図書館学生協働交流シンポジウム(オンライン)視聴参加 9/9

全国の大学の図書館スタッフの取組についての発表を視聴。

◇夏期研修 9/13・14(いずれかに参加)

図書館の概要、著作権などの研修と貴重書庫の見学。

◇大学祭に出店「BOOK & Cafe」 10/29・30

無料の古本市とゆっくり過ごせるカフェを運営。(写真③)



『プロジェクト・ヘイル・メアリー 上・下』

アンディ・ウィアー 著、小野田 和子 訳
(早川書房、2021.12)

請求記号：933.7/W55

「ここ10年間でベストのSF長編は？」と尋ねられたなら(『三体』シリーズとどっちか悩むでしょうが)、今なら『プロジェクト・ヘイル・メアリー』だと答えるでしょう。SFファンが望む多くのものが、この一作に詰め込まれているだけでなく、基本的に話としておもしろいのです。主人公のへこたれない性格も私が理想とするものです。

内容を詳しく言うと、楽しさを減少させる可能性があるのでやめておきましょう。特に前半は中学、高校で習う程度の物理が判ると、よりおもしろく読めますが、まったく苦手の人でも問題ありません。ただし100ページまでは放り出さないで下さい。そのあとがスゴイのです。

英語版も大きな書店で見つけることができます。たとえば「うっそだろ〜！」という日本語訳の元の英語は何だろうな〜と調べてみるのも一興。皆さんの英語能力は、こうしたちょっとしたことの蓄積で向上していくものなのですぞ。英語版は図書館にも揃えるように言っておきましょう。

ホンの少しのネタバレラシをします。後半はエイリアン(地球外異星生物)との遭遇が主題ですが、今までのコンタクト物とはかなり異なります。たとえば相手の主星は、高温でかなり重力が強いという設定です。ライアン・ゴズリング主演の映画化も進んでいると聞きますが、この本を読めば映画化は必然だとわかりますし、絶対観に行きたくなるでしょう。

(学長 谷岡 一郎)



『編集とは何か。』

奥野 武範 取材・構成・文
(星海社、2022.3)

請求記号：021.4/O56

新書も733頁となると、おいそれとお目にかかる厚さではない。幅3cmを超える背の右肩に寄せて、つつましく記されたタイトル。カバーを取った本体も、淡いブルーとグリーンが斜めに走る涼し気な装い。

「知的好奇心を満たすだけでなく、次世代を担う若い世代が、自らの力で未来を切り開いていくための『武器』としても使える知のかたち」を、シリーズで本にしていくと宣言した新書レーベルの今春の新刊。

内容は、「ほぼ日刊イトイ新聞」Web連載の14人の編集者へのインタビュー集。目次に並ぶ14人のジャンルは、物語、デザイン、ケア、アート、漫画、ファッション、新書、絵本、文芸、写真集……と幅広い。

出版・メディア業界に格別興味はなくても、14人が「編集」という言葉のもとに開陳する「熱」と「圧」に

満ちた思索や行動の中に、あなたの心に刺さり、腑に落ちるセリフが見つかるかもしれない。「編集」の醍醐味と妙味にふれたひとときのあとに、カラフルな余韻が広がる。

福音館書店『たくさんのふしぎ』編集長の石田栄吾さんのインタビューに出てくる絵本『一郎君の写真日章旗の持ち主をさがして』にひかれて、買って読んでみた。ちょうど、ウクライナのキーウで町の若者たちから志願兵を募る光景をテレビで見ていたからか、絵本の中の80年前の世界がひどく身近に感じられた。

編集者たちが著者に伴走して生まれたたくさんの本を次々手にとって、本書の傍らに積み上げていきたくなる、最初の一個の煉瓦のような一冊。

(図書館長、公共学部教授 初谷 勇)



『ありえない138億年史』

ウォルター・アルバレス 著、山田 美明 訳
(光文社、2022.8)

請求記号：450/A41

世の中にはふしぎなことがたくさん在る。中でもイチバンのふしぎは、この宇宙が存在していることだ。このことは、実はあんまり深刻に考えると「アタマが飛ぶ」危険もあるので、日頃はなんとなくサラリと意識するにとどめておくのが賢明である。

本書はそのイチバンのふしぎを、歴史科学の観点からわかりやすく展望したいへん刺激的な本である。ぼくが大商大で教えてきた世界史の授業では、洞窟壁画を描いた原始人の心性を探ることから話が始まるが、この本が射程に置くのは、人類誕生、生命誕生、太陽系誕生のずっと以前からのビッグヒストリー。そうでありながら、主役はあくまでもわれわれ人類の歴史で、宇宙展開の中でのヒトの歴史。教科書的ないわ

ゆる「世界史」についてのさまざまな面白いエピソードも、新鮮な視点からたくさん知ることができるようになっている。

ぼくはインドやカナダやアフガニスタンやトルコやイランで、満天に広がるブツブツびっしりの、輝く星々を見たことがある。天の川の流りに沿う巡礼ルートをたどって、フランスからスペインのサンチャゴへと旅したこともある。その星々のひとつひとつに何千万年、何億年の歴史があり、それと自分が繋がっていることを本書は気付かせ、ぼくたち一人ひとりが奇跡的な偶然の重なりの中に生きていることを気付かせる。学際的知見をテンコ盛りにしていて、脳みそに何度もガツンと来て、毎日を輝かせたい！と強く思わせてくれる本。

(総合経営学部教授 下山 晃)



『思考からの逃走』

岡嶋 裕史 著
(日本経済新聞出版、2021.2)

請求記号：007.3/O39

帯に「9割の学生が望むAI進路相談、誰も疑わない検索エンジン…」とあり、「よくある類の内容かな？」と思いつつ、20世紀の名著エーリッヒ・フロムの『自由からの逃走』を想起させるタイトルに期待しつつ読んでみた。

AIが人間の能力以上に進化した地点を「シンギュラリティ」と呼ぶが、その地点に到達すると「大半の仕事はAIに奪われてしまい、クリエイティブな仕事(意思決定)ができる人しか生き残れず人間がAIに従属せざるを得ない！」なんてことは書かれていない。「AIでできることには限界がある」からこそ「人間の智慧が必要です」というのが現代のAIの目指すところのようだ。要するに、未熟なAIと共生できる社会が理想で

あり、そのために人間はもっと思考しなければならないのである。しかし、そこには膨大なコストやリスクが発生する。「だったら、思考すること自体一番コストがかかってリスクが大きいのので放棄しましょう!」と。その結果、決定に役立つ道具を、肌身離さず携帯せずには不安を覚える始末である。

強いAIの支配ではなく、未熟なAIこそが「コストが一番重要!」と叫ぶ人類を破綻に導くという現実をどう受け止めるべきだろうか。抑圧や強制「~からの自由」を獲得した個人は、自らが追求する「~への自由」に対して重圧を感じて逃走するとフロムは述べた。フロムと切り口は重なるが、その結末の深刻さをわれわれは真剣に「思考すべき」ことを本書はさらに教えてくれるだろう。

(総合経営学部教授 河辺 純)



Information

■ 一般利用者の新規利用再開

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般利用者の新規利用を休止していましたが、10月3日から再開しました。引き続き下記感染拡大防止対策を行っております。

■ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策継続中

感染拡大防止策に、ご理解とご協力をお願いいたします。

- ・マスク着用、手指消毒
- ・入館時検温（非接触型温度センサーの設置）
- ・図書除菌BOXの設置
- ・館内換気、閲覧席のセルフ消毒
- ・閲覧席の一部利用制限
- ・館内での会話、飲食の禁止
- ・カウンター窓口のビニールカーテン、閲覧席の亚克力板設置

■ 本学教員著書の寄贈

[大阪商業大学2022年度出版助成を受けた本学教員著書の寄贈]

- ・池田 潔（総合経営学部 商学科 教授）

『地域・社会と共生する中小企業』ミネルヴァ書房、2022年10月。（請求記号：335.35/I32）

[図書館委員会で受入れを承認された本学教員著書の寄贈]

- ・中津 孝司（総合経営学部 経営学科 教授）

『皇帝プーチン 最後の野望』創成社、2021年9月。（請求記号：319.38/N43）

- ・岩崎 勇（総合経営学部 経営学科 特任教授）

『哲学』幻冬舎、2022年2月。（請求記号：104/I96）

※配架場所は、2階「本学教員著書」コーナー（書棚210、B面）です。

■ 図書館WEBサイトにLSSのページを開設

LSS（図書館学生スタッフ）の活動を紹介するWEBサイトを開設しました。読書会や選書ツアーなど図書館主催イベントの運営サポートや、自主企画の特設展示などさまざまな活動を行っています。図書館WEBサイトのトップページにある「LSS（図書館スタッフ）」のバナーからご覧ください。

■ 2022年度 図書館関連委員会開催状況（4～10月）

第1回図書館委員会

2022年4月18日（月）

議題：〔審議〕2022年度選書委員について

〔報告〕①2021年度図書館事業

②同利用状況

③2022年度事業計画 等

第1回選書委員会議（図書館委員会内）

2022年5月30日（月）

議題：〔報告〕①2022年度選書委員による選書

②2022年度雑誌の整理 等

第2回図書館委員会（臨時会）

2022年10月12日（水）

※S-Navi!上でもリモート開催

議題：〔審議〕①レファレンスサービスガイドライン（案）について

②寄贈図書を受入れについて

〔報告〕①雑誌整理の今後の方針

②出版社図書目録による選書

③シラバス「教材（参考文献）」へのISBN入力 等

第2回選書委員会議

2022年10月18日（火）

議題：〔報告〕外国雑誌購入の見直しについて

新型コロナウイルス感染症の状況により開館時間の変更になることがあります。
最新の情報は、図書館1階掲示板・図書館ホームページ等をご確認ください。

【編集発行】大阪商業大学図書館

大阪商業大学図書館報『ブック村だより』第56号 2022（令和4）年12月24日発行

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10

TEL：06-6781-5280

E-mail：lib@oucwo.daishodai.ac.jp

URL：https://ouc.daishodai.ac.jp/lib/

Twitter：@OUC_Lib

QRコードを読み取ると、
図書館ホームページへ
アクセスできます。

